

銘柄米生産情報

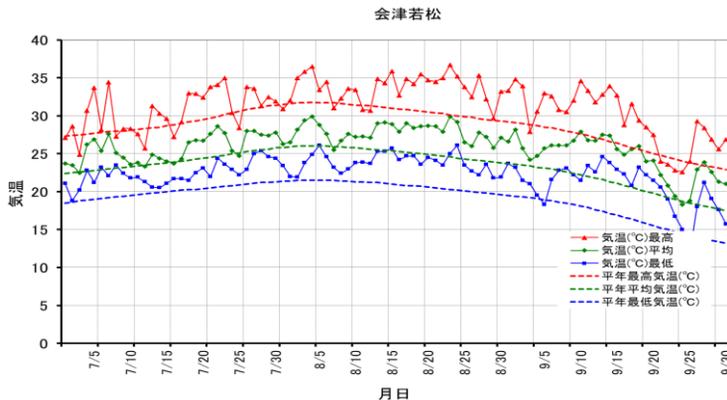
会津若松市・磐梯町・猪苗代町

J A会津よつば（あいづ地区）・JA全農福島県本部

福島県農業共済組合会津支所・福島県会津農林事務所農業振興普及部

令和6年の高温による水稲への影響について

1 7月～9月の気温について



・令和6年の夏は、昨年に比べ気温は低かったものの、平年に比べ高く経過し、特に7月から8月にかけては、平年を上回る日が続きました。また、降水量が多く、日照時間が少なく経過しました。

・9月中・下旬には、降雨が続き、倒伏、収穫に影響しました。

2 本年の生育の特徴

米の1等米比率はJA会津よつばあいづ地区の平均で92.8%(11/15現在)でした。昨年に比べ、登熟期の気温がやや低く経過したこと、水管理、追肥等の高温対策が実施されたことから、高温による白未熟、乳白等の発生は、昨年に比べ大きく低下しています。

しかし、コシヒカリの1等米比率で見ると、87.6%と他品種より低くなっています。本年は、稈長が平年より長くなったことから、特にコシヒカリで倒伏が多く見られました。早期に倒伏したものについては、穂発芽なども発生し、全面で挫折倒伏したほ場などでは、倒伏による白未熟の発生が多く、等級低下の要因となったと考えられます。

3 今後の対策について

【高温に対する対策】

- ・出穂前頃から、水管理は飽水管理（足跡に水がたまる程度）とし、ほ場が乾かないようにしましょう。
- ・出穂期前に葉色がさめると品質低下につながることもあるため、その場合は、追肥を行いましょう。また、稲体の活性を高めるため、堆肥や土壌改良資材の投入、深耕など土作りに取り組みましょう。
- ・高温により刈取時期も早まっています。品質低下を避けるため、適期に刈取しましょう。

【倒伏に対する対策】

- ・基肥や追肥の量を再度確認し、毎年倒れるようであれば、肥料の散布量を調節しましょう。また、中干しをしっかりと行うなどして、倒伏の軽減をはかりましょう。

令和6年の水稲の生育経過について

1 播種期～育苗期

- ・播種作業は概ね平年並に行われました。
- ・育苗期間中に高温で経過したため、一部で高温障害による枯死や、籾枯細菌病等の発生が見られました。

2 移植期

- ・田植えは概ね平年並に進みました。
- ・活着も良好で問題は見られませんでした。

3 分けつ期

- ・6月の天候は良好でしたが、7月は、気温が平年より高かったものの日照時間は平年より少なく、そのため草丈が長めとなったと考えられます。莖数は平年並となりました。
- ・葉いもち等の病害の発生は見られませんでした。



8月初めのほ場の様子

時期		始期 (5%)	盛期 (50%)	終期 (95%)
播種期	本年	4 / 15	4 / 20	4 / 27
	平年	4 / 15	4 / 19	4 / 27

時期		始期 (5%)	盛期 (50%)	終期 (95%)
移植期	本年	5 / 13	5 / 22	5 / 27
	平年	5 / 15	5 / 20	5 / 26

4 幼穂形成期

- ・幼穂形成期は各品種ともほぼ平年よりやや早まりました コシヒカリ(平坦部):7/13(-2日)、ひとめぼれ(山間部):7/14(-1日) ()内は平年差

5 出穂期

- ・7月からの高温により、出穂期は平年に比べ3~4日程度早まりました。

時期		始期 (5%)	盛期 (50%)	終期 (95%)
出穂期	本年	7 / 27	8 / 5	8 / 9
	平年	7 / 31	8 / 7	8 / 12

6 登熟期～収穫期

- ・昨年より低く経過したものの、平年を上回る高温が続いたため、登熟は平年より早く進み、始期は平年より10日以上早まりました。その後、降雨が周期的にあったため、終期はほぼ平年並となりました。
- ・稈長は平年より長く、降雨も周期的にあったことから、倒伏の発生が多くなりました。
- ・収量は、倒伏程度が高かったほ場では、平年に比べ低下しますが。全般に平年並からやや多程度となりました。

品種	出穂期	
	本年	平年
コシヒカリ(平坦部)	8 / 5	8 / 8
ひとめぼれ(平坦部)	7 / 28	8 / 1
ひとめぼれ(山間部)	8 / 5	8 / 9
里山のつぶ(山間部)	8 / 4	8 / 7

時期		始期 (5%)	盛期 (50%)	終期 (95%)
収穫期	本年	9 / 12	10 / 4	10 / 18
	平年	9 / 24	10 / 6	10 / 19

さまざまリスクに備え収入保険に加入しましょう！
(青色申告を行っている農業者が対象です)